



まいづる 市議会だより

Maizuru City Council News Letter

No. 198

令和7年(2025)
12月21日

臨時号

議会だよりはこのコード
からご覧いただけます。



令和7年 第1回臨時会のあらまし

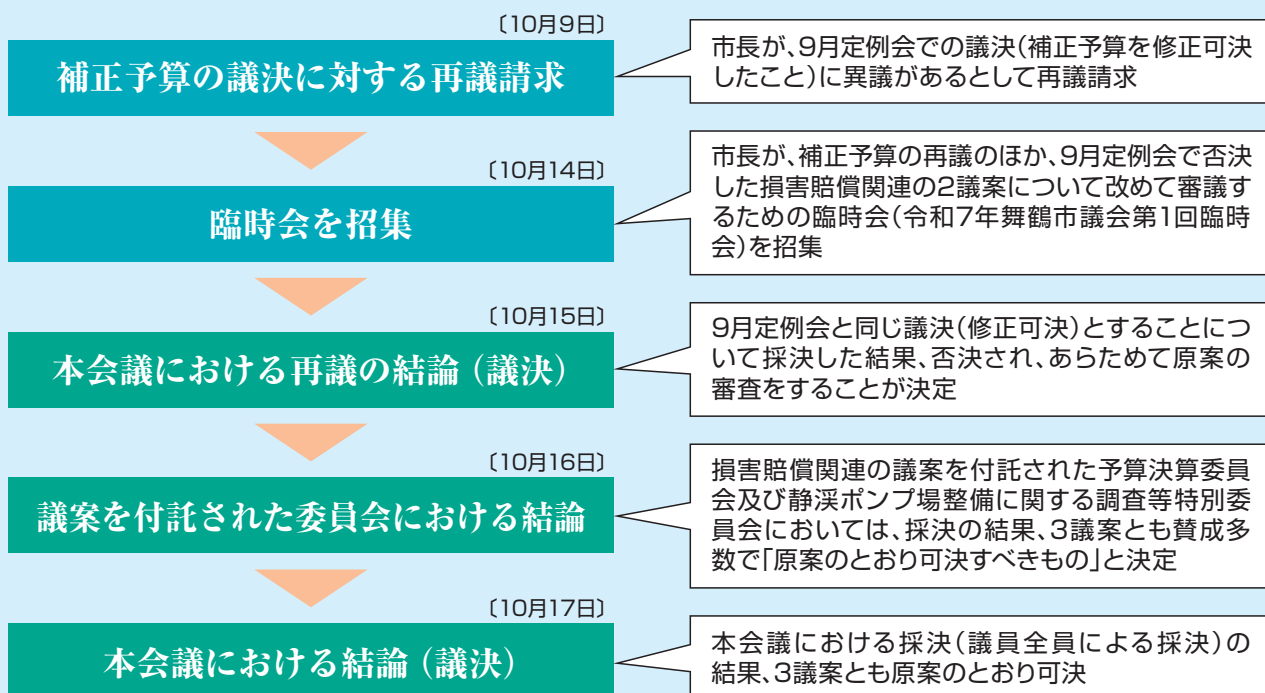
- 令和7年9月定例会において修正可決された令和7年度一般会計補正予算(第4号)に対する再議、また、同定例会において否決された令和7年度下水道事業会計補正予算(第2号)および損害賠償の額を定めることについて(静溪ポンプ場建設(第21-1)工事の工事請負契約の解除)を改めて審議

令和7年舞鶴市議会第1回臨時会は、10月15日から10月17日までの3日間開催されました。

9月定例会において、令和7年度一般会計補正予算(第4号)を修正可決したことに対して、市長から再議の請求があり、その審議のために開催された令和7年舞鶴市議会第1回臨時会では、まず、9月定例会と同じ議決(修正可決)とすることについて採決を行い、これを否決。続いて原案について審議し、賛成多数で本議案を原案のとおり可決しました。また、その他の2議案についても審議した結果、賛成多数で原案のとおり可決しました。

静溪ポンプ場整備の損害賠償に関わる審査の経過

静溪ポンプ場整備工事が発注者(舞鶴市)の都合により契約解除となったことに伴う損害賠償について、あらためて審査しましたので、その経過を説明します。



予算決算委員会

Q 損害賠償に現場代理人の退職金が含まれているが、今回の契約解除と退職に因果関係が認められるとの認識で計上されているのか。

A 自己都合による退職であると思われるが、工事休止期間中における退職金分として認められる金額が計上されていることが確認できたため、損害賠償に含めることとした。

Q 退職金を損害賠償として認めることとした基本的な考え方は。

A 退職金の額を、工事期間中の日数で按分した退職金の一部であり、JV側と協議し、実際に支払われた額であることから、損害として計上するのが妥当と判断した。

Q 今回の損害賠償は、施工協議に基づいて実施された工事の費用で、実費精算と同じような答弁をされてきたが、損害賠償としての予算計上である以上は、工事費ではなく損害賠償として適切なものであるかを確認する必要がある。この点を市はどのように考えているのか。

A 通常であれば、変更契約によって工事費として支払うが、契約を解除したことによって、損害賠償として支払うことになったもの。損害賠償としての審査となることは十分承知しており、議会や市民の皆様には損害賠償として説明できるように、内容を精査した上で、国土交通省の基準やガイドラインに沿って金額を積み上げている。

懲罰動議

令和7年第1回臨時会において議員発議し、可決した懲罰動議は次のとおりです。

今西克己議員に対する懲罰動議

今西克己議員は、令和7年舞鶴市議会9月定例会で議決した事務検査において提出された非公開資料について、舞鶴市役所庁舎内の指定された場所以外への持ち出しが禁止されていたにもかかわらず、資料の一部が自宅で発見された。

当該資料の取扱いは、予算決算委員会静溪ポンプ場整備に関する分科会において確認された取り決めがあり、指定された場所以外への持ち出しは、この取り決め違反するものである。

また、当該資料は、秘密会において使用した資料であり、舞鶴市議会会議規則第113条に規定する秘密の保持に対する違反と同等の行為である。

地方自治法第134条第1項においては、地方自治法並びに会議規則及び委員会に関する条例に違反した議員は、懲罰の対象となることが定められていることから、懲罰を科すべきである。

※本動議を受け懲罰特別委員会が設置され、そこでの協議を経て本会議において7日間の出席停止の懲罰が決定された。

秘密保持に関する不適切な事案について

令和7年9月定例会において、舞鶴市議会議員による秘密の保持に関する不適切な事案が2件発生しました。秘密の保持は議員として最も基本的な責務であるにもかかわらず、立て続けにこのような事態を起こしたことは痛恨の極みであり、未然に防ぐことができなかったことにつきまして、議長としてその責任を重く受け止めております。

市民の皆様の信頼を著しく損なう事態となりましたことを、市議会を代表し、心より深くお詫び申し上げます。

当該事態への対応としましては、舞鶴市議会として公開の場で、それぞれの議員を出席停止とする懲罰を科したところであります。

今後は、極めて厳正さを要する秘密の保持について再度認識を改め、二度とこのようなことが起こらないよう舞鶴市議会全体で取り組むことを誓約いたします。

令和7年10月17日

舞鶴市議会議長

肝付 隆治

【会派】 鶴政…自民党鶴政クラブ議員団、新政…新政クラブ議員団、超党…超党・市民ファースト議員団、公明…公明党議員団、共産…日本共産党議員団 ☆舞鶴市議会の議員定数は25人です。

【議決結果】 可…可決、修可…修正可決、否…否決、同…同意、不同…不同意、承…承認、認…認定、可認…認定及び可決、採…採択、不採…不採択
【賛否】 ○…賛成、×…反対、欠…欠席、退…退席、除…除斥、棄…棄権、停…出席停止

令和7年第1回臨時会での議案採決の結果は次のとおりです。この採決は、「押しボタン式投票」で行ったものです。この結果は、舞鶴市議会のホームページでも公表しております。



議決をした日																		
川口孝文	肝付隆治	谷川眞司	水嶋一明	南正弘	今西克己	田畑篤子	野瀬貴則	眞下隆史	眞下弘明	山本治兵衛	高橋秀策	仲井玲子	西村正之	廣瀬昇	福本明日香	上羽和幸	小谷繁雄	杉島久敏
鶴政	鶴政	鶴政	鶴政	鶴政	新政	新政	新政	新政	新政	新政	超党	超党	超党	超党	超党	公明	公明	公明
○	○	○	○	○	停	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×
○	○	○	○	○	停	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	停	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	停	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	除	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議決をした日																		
10月15日																		
10月17日																		
10月17日																		
10月17日																		
10月15日																		

※令和7年度舞鶴市一般会計補正予算(第4号)の再議については、「さきの議決(10月7日の修正可決との議決)のとおり決すること」に対する賛否の投票。特別多数議決の場合は、議長も投票。

令和7年10月17日の最終本会議において、提案された議案に対して討論・採決をしました。

討論・議案の採決

討論

不適切支払いに対し
説明と答弁に不信感

新政クラブ議員団

眞下隆史

全議案に反対する。

9月定例会に提出された損害賠償額の議案資料を確認し、施工協議により実施した工事等の未払いについて、経費や費用の内訳と支払金額が詳細に示されず、委員会審査に支障を来した。やむなく秘密会の審査で、工事中の現場経費や社員等従業員給与の中で、給与総額が貸金台帳の合計額と異なり、市側の答弁も曖昧で都度答弁内容が異なっていた。また、当初の説明資料に記載のなかった退職手当が支給されているこ



とも判明した。退職金は、間接的損害として損害賠償の支給対象にはならないと判断し、税金から支払うことは市民の納得が得られないと考える。さらに、後から提出された資料で、社会保険料も支払われていたことが判明した。審査中に副市長から市側の説明・答弁に対して謝罪があった対応をみても、疑問が残る支払いの一部を認めることで、不適切な支払いを議会が容認したと捉えられないよう大義をもって反対する。

討論

損害賠償の経費として
認定する

自民党鶴政クラブ議員団

南正弘

全議案に賛成する。

臨時会での市の説明に対して検討を重ねたのは、損害賠償に対する特例要件をどこまで認めるかであった。経費の積み上げに疑問が残る説明が不十分であることや、交渉の過程が確認できていないなどの理由により安易に認定できないとする意見があった。しかし、本件は、市の計画変更によって契約を解除したことや、6600万円もの工事費用を業者が負担し、契約解除から一年半も経過していること。業者と市との



信頼関係や市内業者の不信感を排除することに加え、損害賠償の協議の結果、市の工事費試算より約620万円も減額していることなど、総合的に検討した結果、特例として認めざるを得ないのではないかとの結論に至った。市の執行機関に対して、議案審査、事業者J・Vへの支払い等が遅くなった原因について、強く責任を求め、総合的に判断した結果、損害賠償の経費として認定できるものと判断し、全議案に賛成とする。

議案の採決結果

(令和7年第1回臨時会) 会期:10月15日～10月17日

議 案 名 等		議員名等(会派内は五十音順)	出席者数 (議長を除く)	投票者総数	賛成	反対	棄権	議決結果	上野修身	尾関善之
									鶴政	鶴政
市長提出議案	令和7年度舞鶴市一般会計補正予算(第4号)の再議 ※特別多数議決(可決には出席議員の3分の2以上の賛成が必要)	24	24	12	12	0	否	○	○	
	令和7年度舞鶴市一般会計補正予算(第4号)	23	23	18	5	0	可	○	○	
	令和7年度舞鶴市下水道事業会計補正予算(第2号)	23	23	18	5	0	可	○	○	
	損害賠償の額を定めることについて(静浜ポンプ場建設(第21-1)工事の工事請負契約の解除)	23	23	18	5	0	可	○	○	
動議	今西克己議員に対する懲罰動議	23	23	23	0	0	可	○	○	

再議とは

市長が、議会の議決に異議がある場合に、議会に対して審議のやり直しを求めることができる制度です。

再議に付された議決は、過半数ではなく、議長も含めた出席議員の3分の2以上が、その議決結果に賛成した場合に確定します。賛成者が3分の2に満たなかった場合は、改めて原案を審議します。

令和7年10月17日の最終本会議において、提案された議案に対して討論をしました。

討 論

討 論

賠償額の詳細を確認、 妥当性において理解

公明党議員団

杉島久敏

全議案に賛成する。
雨水処理事業費は、舞鶴市と受注業者の施工協議に基づき実施した工事や経費について、未払いとなっている工事費を支払うものである。先に契約を解除していることから、損害賠償の中で、すでに受注業者において施工していた分を支払うもので、早期の支払いが必要であると認識している。その上で、前回行われた分科会の秘密会において詳細を確認し、その妥当性も理解したところである。

工事費の総額として適当

本市が積算した約7300万円については、国土交通省のガイドラインをはじめ、その根拠を示されたところであり、この金額を基準として、受注業者と協議を行い6676万円まで減額していることから、工事費の総額として適当であると判断する。先の予算決算委員会においても多くの質疑があったが、この内容を覆すものではない。また、当該損害賠償に係る支払いを速やかに実施されることが必要であると判断し、賛成討論とする。



討 論

資料厳正に審査 結果妥当と判断し賛成

日本共産党議員団

伊田悦子

全議案に賛成する。
提案された3議案はいずれも、静溪ポンプ場建設工事の工事請負契約解除に関するもので、当該土木工事においては、令和3年度の発注後、増額変更を繰り返すのみで工事の進捗が図れていなかった。そのため、令和6年度に任意解除権に基づき契約解除したことから、損害賠償のうち、逸失利益分を除く施工協議により実施した未払いの工事費分を追加計上するもの。提出された資料を厳正に審査した結果、妥当と判断した。

市の契約解除から1年半以上経過している。

工事施工業者であるJV3社は、すでに施工し、市内はもちろん市外も含め、中小受託業者や資材調達先に支払いを終えていることから、多額の欠損が生じることになる。損害賠償未払い期間がさらに延長されれば、法人の資金繰りや今後の事業継続など会社への影響も懸念される。損害賠償額の問題をこれ以上長引かせることは議会として適切でないと判断し、賛成する。



討 論

当該企業体に 早急な支払いを

超党・市民ファースト議員団

福本明日香

全議案に賛成する。
令和7年度一般会計補正予算第4号、令和7年度下水道事業会計補正予算第2号、損害賠償の額を定めることについて（静溪ポンプ場建設（第21-1）工事の工事請負契約の解除）の全ての議案に賛成する。静溪ポンプ場に係る損害賠償は、国土交通省の工事休止期間中の支払いを定めたガイドラインを基に算出された金額であると、何度もご説明いただいた。本来であれば変更契約にて速やかに支払うべき金額であったもの

のが、任意解除により、損害賠償として支払われることとなり、会社経営に関わる経費ではなく、現場に直接関係し、実質損害が発生している経費である。工事中止期間に発生している現場管理経費を含めた実質工事に係る経費は、実質的損害に照らしたさまざまな理由を根拠に認められている。当然、損害金額の支払い義務が発生していることから、適正な損害賠償額として認め、速やかに支払われるよう求め、賛成する。

